

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

メール配信で知った7億円当せん 妹のスマホで再度確認して一安心

手元の新聞で宝くじの当せん番号調べをして、高額当せんを知った瞬間、多くの人が大あわて。「新聞の番号が間違っているのでは…」などと考え、駅前の売店などで何種類もの新聞を買い込んできて、番号調べをする人もいる。しかし、時代とともに、番号調べの方法も様変わり。再確認の方法も変わるようで…。

1 昨年の年末ジャンボ宝くじ（第770回全国自治宝くじ）で1等7億円を当てた京都府の会社員Bさん（41）の場合は、時代の先端

を行く方法で当せんを確認している。Bさんはスマホに当せん番号配信の登録をしており、抽せん日の大みそかに実家へ帰省。そのときに知らせが届いたような。すぐに番号調べをして当せんを知ったものの、なぜか不安。そばにいた妹のスマホで別のサイトでも当せん番号を確認。組番号、そして6ケタ番号とも一致しており「これで安心！」。

そのあとは、家族全員で盛り上がり、人生最高の大みそかをすごしたような。長男であるBさん。当せん金の使い道については「まず、実家を大きく建て直します。そして、妹たちが頻繁に來れるようにしたいです」ときっぱり。

さすが、お兄さん！



ご当地クーちゃん

二十世紀梨クーちゃん

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

ベテランに思わぬ落とし穴 危機一髪！ 1等の後賞1億円

富山県に住む会社員Kさん（61）は30年来の宝くじファン。ジャンボのたびに100枚以上購入しており、抽せんとともに必ず番号調べをする。そして、宝くじ券を末等などの「当たり券」と「ハズレ券」に分けて売り場へ持参して、再度、番号調べをしてもらう。

1 昨年のハロウィンジャンボ宝くじ（第765回全国自治宝くじ）も100枚を購入。いつも通り、番号調べをして2つに分類。そして、換金に行こうと思ったら用事ができて、奥さんに依頼した。Kさんの指示通り、窓口

に提出した奥さんだが「ハズレ券」のチェック中に機械が停止。「アレ？」と思っていたら、係員から「銀行に行ってください」という指示。「いくらですか」と小声で聞いたら、なんと「1億円です」と。

帰宅して「結構、大きく当たっていたわよ」と奥さん。これを聞いて「10万円か？」とKさん。「ノー」と奥さん。「じゃあ100万円か？」とKさん。再び「ノー」と答えて「1億円」と報告。これで、びっくりのKさん。

当たったのは「1等の後賞」で、このため、番号調べで見逃してしまった…というしだい。ベテランらしからぬ大チョンボだが「ハズレをも番号調べしてもらう」という用心深さはベテランのワザ。まずは「メダシ、メダシ」だ。



ご当地クーちゃん

笹かまクーちゃん

宝くじ おもしろ話

75年ぶりに記録更新した 宝くじ抽せん会の観客数

日本政府発売の「第1回宝籤（くじ）」が発売されたのは昭和20年10月29日。今年が宝くじ誕生・75周年の記念イヤーだが、この第1回宝くじの抽せん会は同年11月12日に東京・日本橋の三越百貨店の1階踊り場で開催された。当日は午前10時20分から始まったが、このとき、会場に集まった観客は、翌朝の新聞によると、なんと5,000人。この観客動員数はその後ずっと破られることなく最高

記録だったが、それが近年、破られた。

平成29年7月に発売のサマージャンボ宝くじ（第723回全国自治宝くじ）と同宝くじのミニとプチ、計3つの宝くじの抽せん会は同年8月20日に東京・明治神宮野球場の特設ステージで午後6時32分から開催された。当日はこれに先立って、別会場の明治記念館で各宝くじの1等抽せんをそれぞれ1本ずつ残して各等級の抽せんを実施。そして、残る各宝くじの1等・1本の抽せんを夕暮れの野球場で実施した。この日は「神宮外苑花火大会」の日で、主催者発表によると野球場内には26,000人ももの見物客が集まっていた。これだけの大観衆の前で宝くじの抽せんが行われたことは、いまだかつてない。

